



Save the Children

Children Firstのこども行政のあり方勉強会 3,000人の子どもの声 ～国の子どものための新たな取り組みに関する 子どもアンケート調査結果から～



子どもアンケート

あなたの声をきかせてください

2022年1月20日
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
国内事業部 西崎萌

子ども支援専門の国際NGO セーブ・ザ・チルドレンとは？

- 約100年の歴史を持つ子ども支援専門の国際NGO
- 日本を含む約120ヶ国で子ども支援活動を展開

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

セーブ・ザ・チルドレンの活動分野

教育



保健・栄養



緊急・人道支援



防災



子どもの保護



子どもの参加



アドボカシー



日本での活動

- ・子どもの貧困問題解決
- ・子ども虐待の予防
- ・災害時の緊急支援活動
- ・新型コロナウイルス対応緊急子ども支援



子どもに関する基本法・省庁創設の議論にあたって

独立
機関

「子どもに関する新たな省庁」

- 0～18歳未満のすべての子どもを対象
- 総合的・包括的調整を行うための十分な地位、権限、財源、人員を保障
- 新省庁創設の過程で、子どもの意見を聴き、それを反映したものとすること
- 当事者である子どもの意見を聴き、子どもに関わる立法や政策に適切に反映させる仕組みを持つこと

独立した子どもの権利擁護・ 監視機関

- 0～18歳未満のすべての子どもを対象にした制度
- 独立した立場で調査し、子どもに関わる政策・立法について勧告する権限を持つ

子どもの権利（子どもに関する基本法）

国連子どもの権利条約を基盤とした総合的な法律の制定

4つの一般原則：差別の禁止、子どもの最善の利益、生命・生存・発達の権利、子どもの意見の尊重（意見表明・参加）

国連子どもの権利委員会からの日本に対する勧告(2019年)

- ①子どもの権利に関する総合的な法律、②調整機関、③独立した監視・救済機関をつくるのが強く求められている

1. 調査概要

目的

子どもに関する新たな行政組織や基本法、意見表明などについて、実際に子どもたちがどのように考えているのかを把握し、子どもの声を取り入れた政策になるように働きかける。

対象

18歳ぐらいまでの子ども ※調査会社を通じて調査に回答した子どもは15～18歳

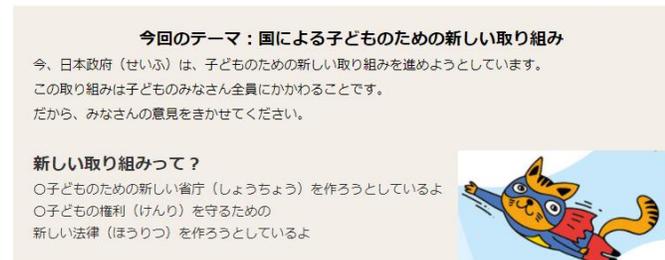
実施期間

2021年9月17日～2021年10月17日（1ヶ月間）※調査会社による調査：10月6日～10月11日

方法

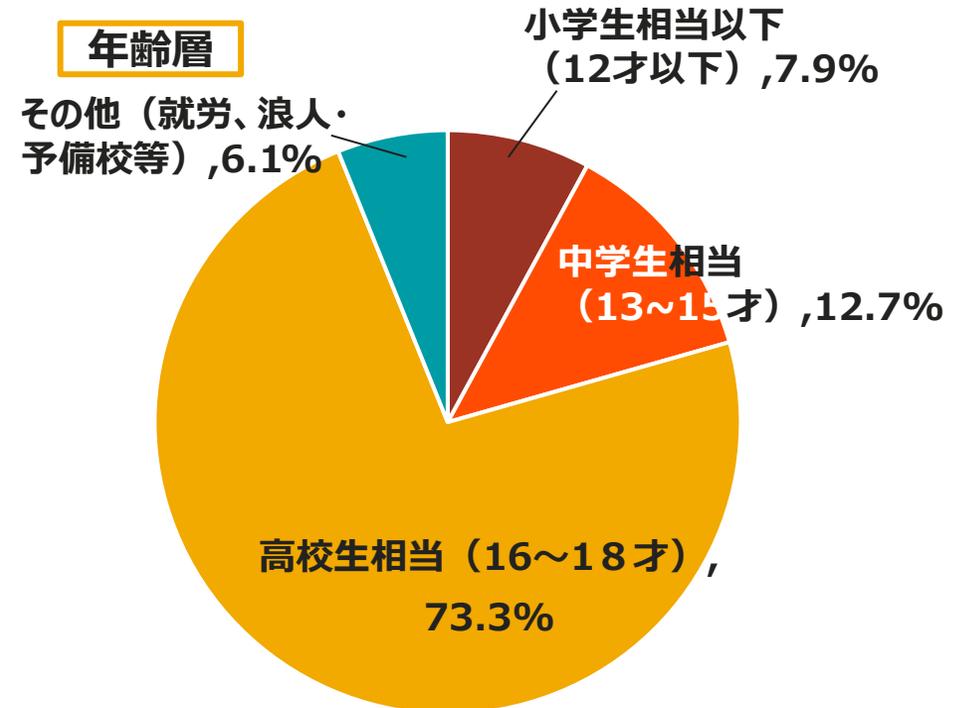
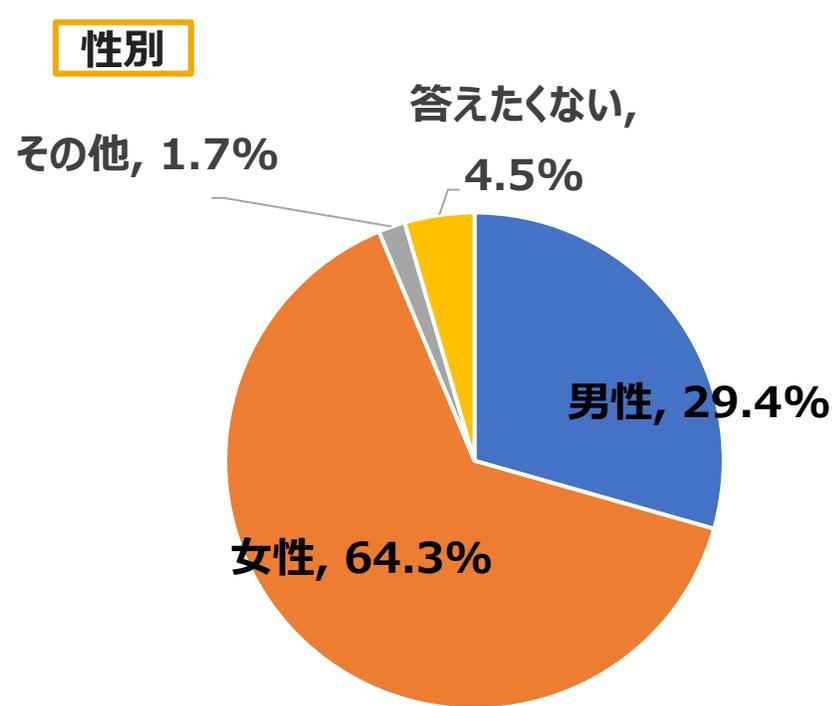
- ①インターネット上でのアンケートフォーム（Microsoft Forms）を用いたウェブアンケート
 - ②調査会社による専用調査画面を用いたウェブアンケート
- ※①②ともに質問内容・順番については統一

（アンケート特設サイト）
→ <https://www.savechildren.or.jp/lp/kodomonokoe202109/>



2. 調査結果（基礎データ）

アンケートの回答者は、2,984人 ※すべて匿名、氏名やメールアドレスなど個人情報は取得せず

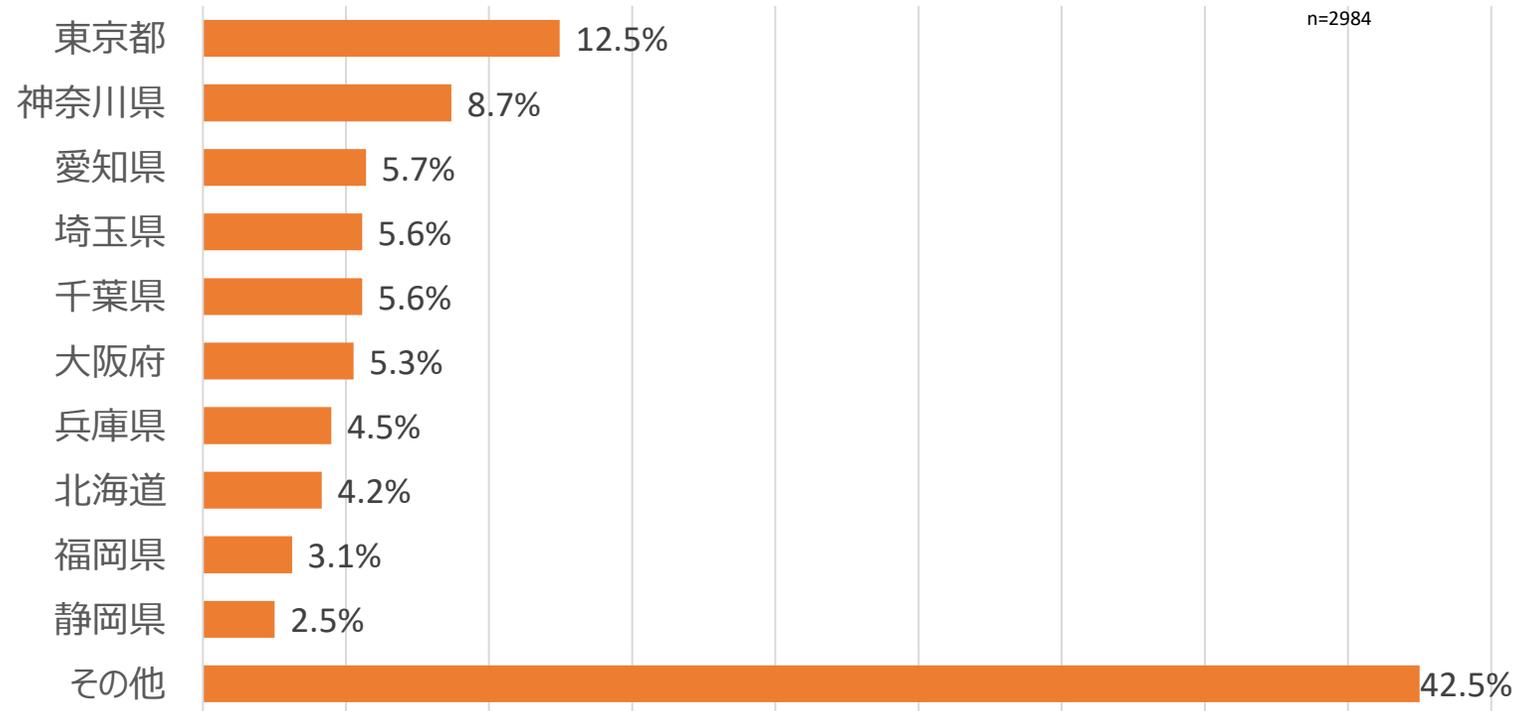


※注記：調査協力者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の18歳までの子どもに妥当するものではない。

2. 調査結果（基礎データ）

居住地

住んでいる都道府県を教えてください【上位10都道府県】



回答者の居住地構成割合は
首都圏（1都7県）38.0%、関西圏（2府4県）14.4%、東海（3県）9.6%

調査結果ハイライト①（子どもの困りごと）

進学や受験・就職が約4割、お金・勉強のことがそれぞれ約3割

自分の身近なことで困っていること、心配なことはなんですか？

【回答結果上位5つ】（3つを目途に複数選択）



【その他の困りごと】			
特になし	12.5%	放課後や休日のこと (塾や習い事など学校外での学びや遊びを含む)	3.8%
アルバイトや仕事のこと	11.2%	インターネットやSNSを使うときのこと	3.3%
自分の健康や病気のこと	8.9%	気候変動や環境問題	3.1%
部活動のこと	6.9%	(自分、家族、友だちなどの) 障害のこと	2.8%
校則のこと	6.6%	いじめ	1.9%
親・保護者のこと	6.6%	親・保護者以外の家族のこと	1.7%
自分のアイデンティティのこと	6.1%	わからない	1.7%
答えたくない	5.9%	差別	1.5%
学校などの先生のこと	5.1%	その他	1.0%

いじめ

子どもの困りごと



いじめは、**中指を立てる、悪口を言われる、物を投げられる、お腹を殴られる。**
(11歳,男性,熊本県)

友だちからの悪口がつらくて訴えたのに**先生に聞いてもらえなかった。**
気にする方が悪いと言われた。 (14歳,女性,徳島県)

デマを流されて部活内で話したことない人にまで悪口を言われたり、私にも非があったことも一緒に伝えたら、先生に「あなたが部活を休むことが多かったのが悪い」と言われた。 親には先輩との信頼関係を築けてないお前が悪いといわれた。(15歳,女性,愛知県)

(いじめ)**小学校、中学校計9年間の間いじめが酷く、その影響で人と喋る事が怖くなった。** もうこんな事が起きて欲しくないし、**助けて欲しいから。**
(16歳,その他,茨城県)



虐待

子どもの困りごと



パパが浮気してママの首をしめて救急車もきてパパは出てった。パパの事が怖い。
(10歳未満,女性,静岡県)

僕は、今まで、**虐待的指導で、育ってきたので、自分のような** 思いを、誰にも感じさせたくない。(17歳,男性,静岡県)

母親が毒親？で私の友達を決めようとしてきたりして辛いです(あの子は成績が悪いから関わるなとか言います) **私のコンプレックスもあからさまに指摘してきたり** 笑ったりします。でも飴と鞭のように優しい時はすごくやさしいです。**一緒にいるとおかしくなりそうです。** (18歳,女性,石川県)

父親が暴力的である。 (18歳,女性,三重県)

貧困

子どもの困りごと



パパが浮気して出てった。ママはお金が無いからお魚や果物が買えなくてごめんねって言う。欲しいもの、必要なものも買えない生活になるのが不安で不安でたまらない。

(10歳未満,女性,静岡県)

母子家庭なので家庭が苦しく進路も悩むし親が体調を崩している事も心配

(16歳,女性,埼玉県)

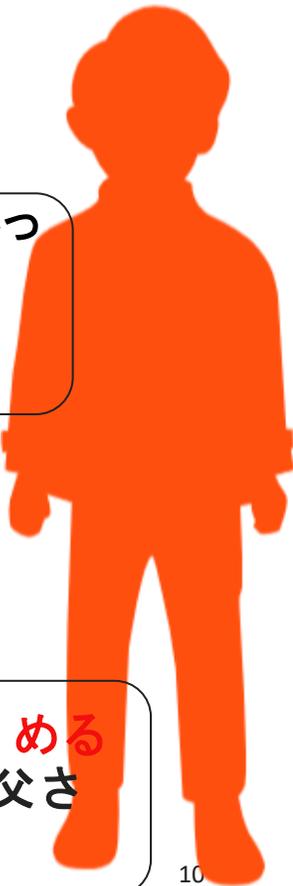
姉が重度の障害で母子家庭だから、お金だったり生活が大変。障害者がいる家の大変さを分かっているけど、お金が無いから友達と同じ様に出来ないのが辛い。

進学したいけど奨学金だけじゃ足りない、その前の入学金がない、それを借りる場所もない。

でも母は頑張ってくれてるし、どうして良いか分からない。(17歳,男性,東京都)



家にお金が無さ過ぎて来年学校に入学するのどうしようか迷っている。(17歳,女性,宮城県)



大学の学費が高い。近くに通える大学がないので、下宿代をふくめると大学4年間で一千万円くらい奨学金を借りないといけない。お父さんやお母さんがとても困っている。(18歳,女性,福島県)

校則・学校のこと 子どもの困りごと



校則について、女の子はスカート男の子はズボンって決まっていることに疑問を持っています。(11歳,女性,東京都)

季節に合わないのに制服を何月だからとか決めている。5月は暑いのに冬服、6月は梅雨で寒いのに夏服着ろ、カーディガンは許さないと言われる。(14歳,女性,宮城県)

(新型コロナウイルスの対策により) 給食時間喋れなかったり、遊べないこと。(11歳,女性,熊本県)

日本語が母国語ではない生徒(自分を含む)への日本語サポートが欲しい。日本語がわからないので授業に出ても座っているだけの状態なので、その辺りのサポートが欲しい。(13歳,女性,千葉県)

子どもの困りごとを正確に補足するために工夫が必要

困りごと・心配なこととして「いじめ」を選択した子どもは、全体のわずか1.9%
いじめを選択した子どもの自由回答で寄せられた声：

学校がいじめや差別を注意しても、
する人は、素直に受け入れてくれない
(17歳)

小学校、中学校計9年間の間のいじめが
酷く、その影響で人としゃべることが怖く
なった。もうこんな事が起きてほしくないし、
助けてほしい (16歳)

しかし、「いじめ」以外の困りごとを選択した子どもの自由回答において、いじめに関
連する記述が57件 (1.9%) あり、合計で3.8%の子どもがいじめに関連する悩み
を抱えている

- なぜ「いじめ」を選択しなかったのか？ いじめられていると認めたくない、いじめだと認
識していないといった理由が考えられる
- たとえ匿名だとしても、子どもに直接にいじめなどの状況を確認したり、子どもた
ちの本当の困りごとを補足する難しさがある

2. 調査結果（年代別：子どもの困りごと）

年代が上がるにつれて経済的な心配が増加

小学生は新型コロナへの不安が他の年代に比べて顕著に高い

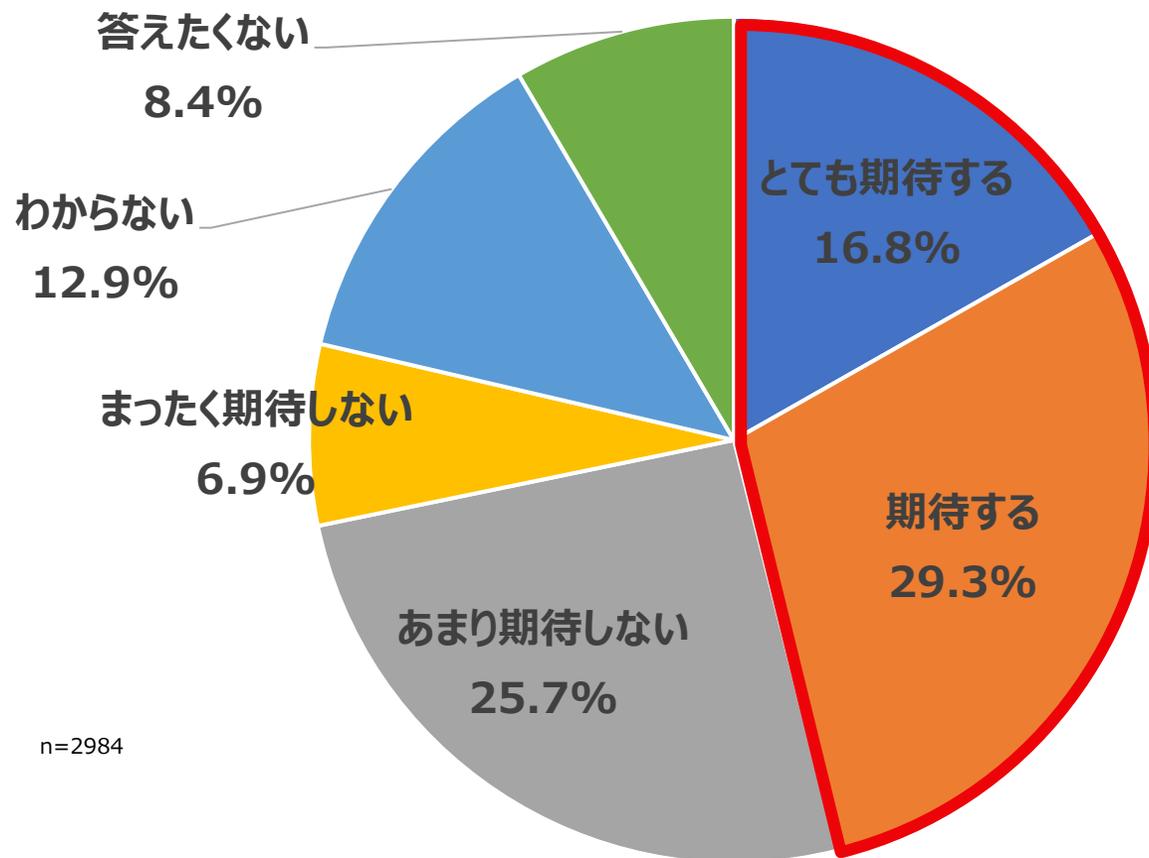
【年齢層別】自分の身近なことで困っていること、心配なことはなんですか？【上位回答 5つ】 (3つを目途に複数選択)			
小学生以下相当 (12才以下、n=235)	中学生相当 (13~15才、n=377)	高校生相当 (16~18才、 n=2188)	その他 (就労、浪人・予備校 等、n=182)
授業など勉強のこと	授業など勉強のこと	進学や受験、就職のこと	答えたくない
新型コロナウイルス感染症	進学や受験、就職のこと	お金のこと	お金のこと
進学や受験、就職のこと	お金のこと	授業など勉強のこと	進学や受験、就職のこと
お金のこと	家族以外の人間関係 (友だち・恋愛関係など)	家族以外の人間関係 (友だち・恋愛関係など)	特にない
特にない	新型コロナウイルス感染症	新型コロナウイルス感染症	授業など勉強のこと

調査結果ハイライト②（子どものための新たな省庁・法律への期待）

期待する子どもは約半数、現状が改善する・子どもの声が聴かれるようになる？

国が、今、新しく子どものための省庁や法律を作ろうとしています。

これについてどのように思いますか？（単一回答）

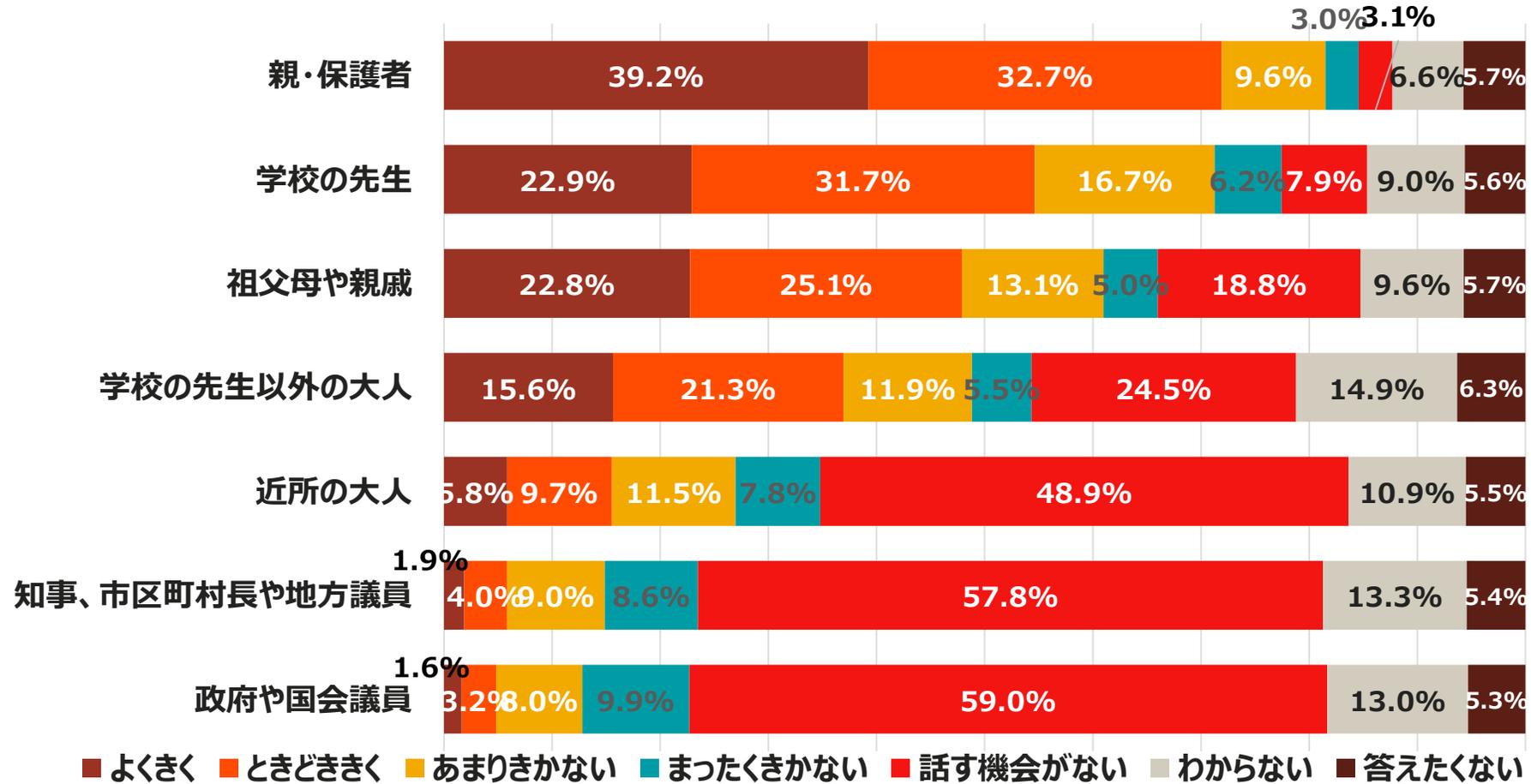


「とても期待する・期待する」
合わせて**46.1%**
→期待する子どもが約半数

調査結果ハイライト③（大人は考えや意見を聴いているか）

約6割の子どもが国や自治体・議員と話す機会がないと感じている

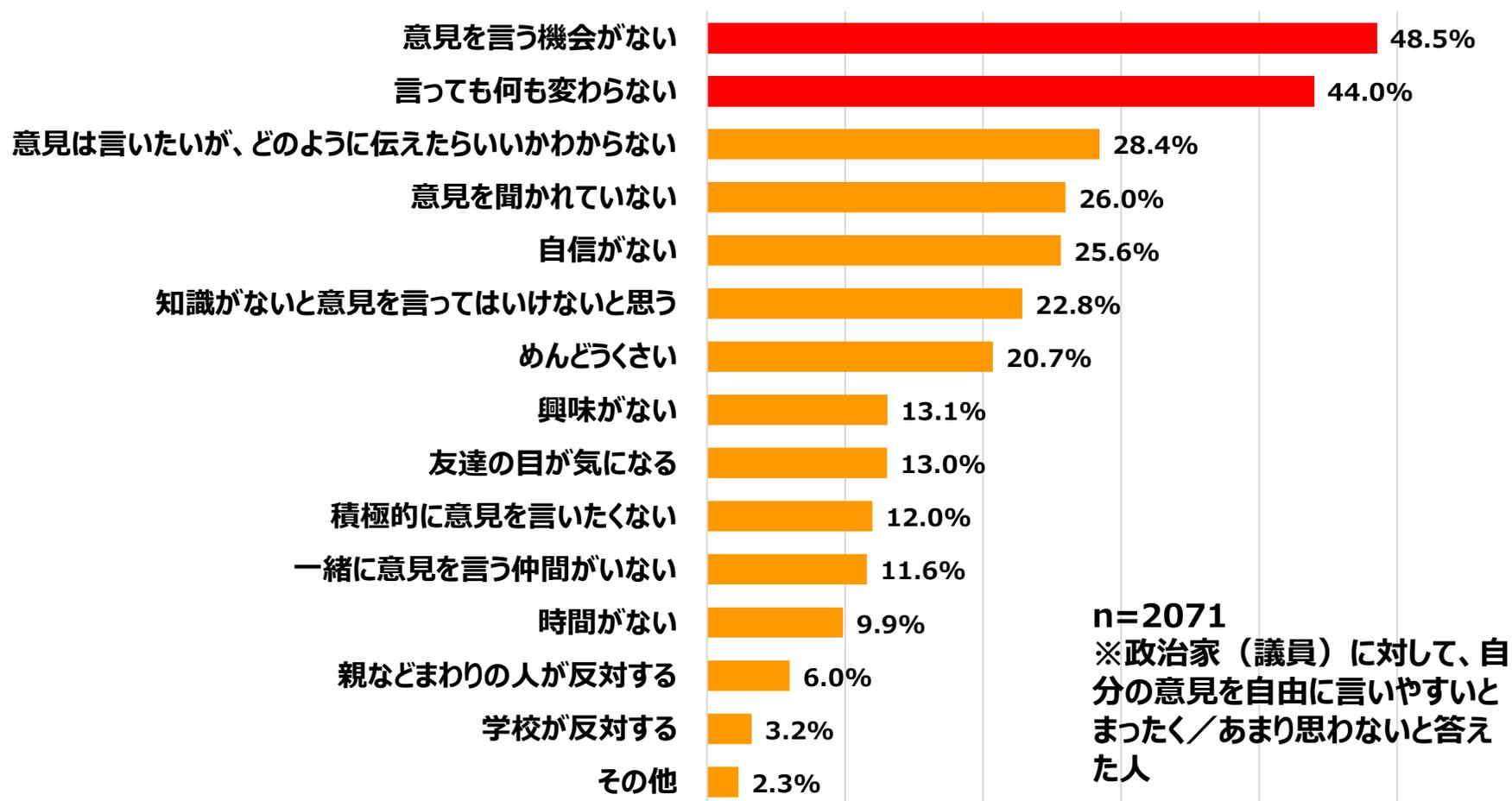
大人はあなたの考えや意見をきいていると思いますか？（それぞれ単一回答）



n=2984

調査結果ハイライト③（政治家に意見を言わない・言いにくい理由） 言う機会がない・言っても変わらないと回答した子どもが5割弱

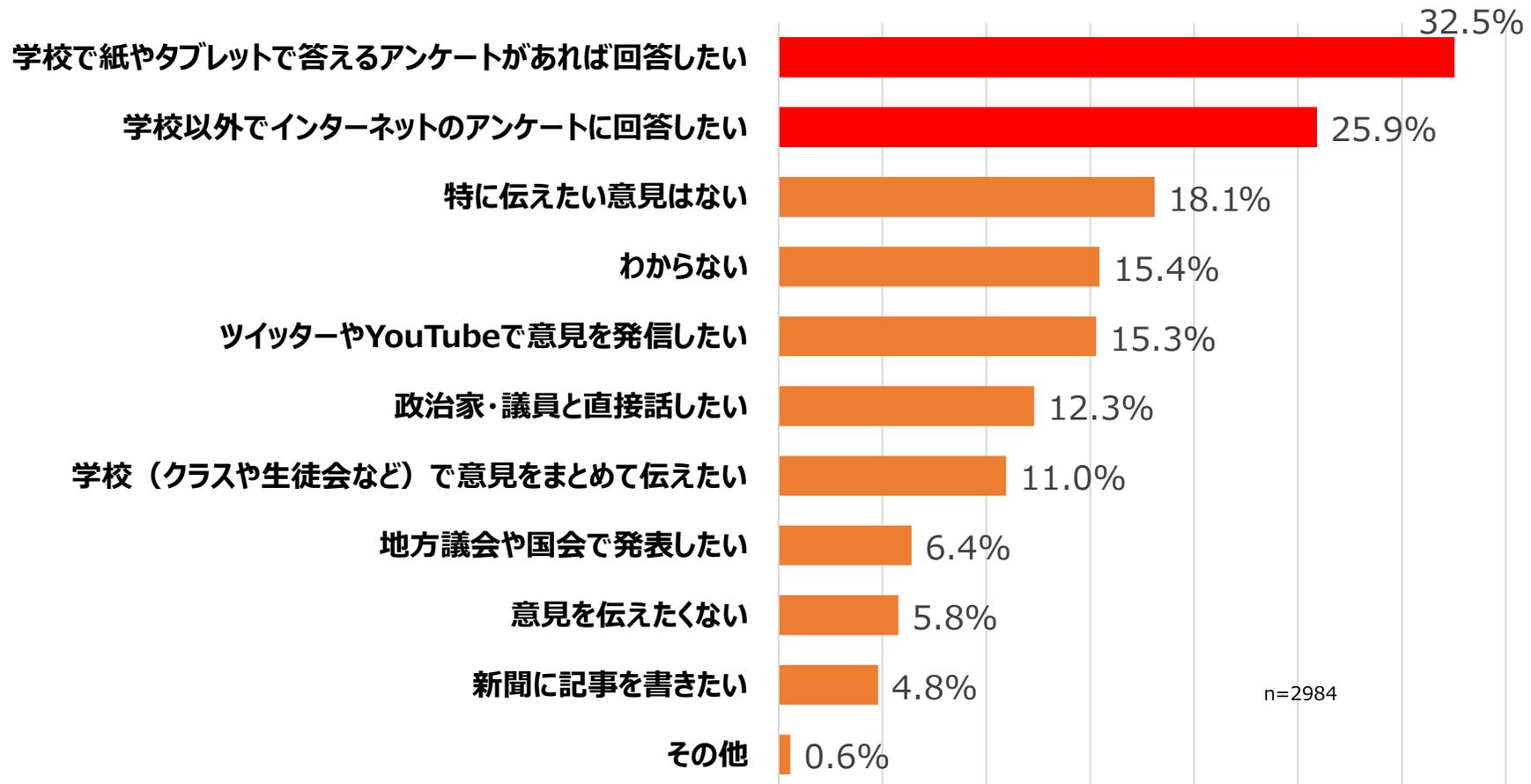
自分の意見を言わない・自由に言いにくい理由について、
あなたの気持ちに当てはまるものをすべて選んでください。（複数回答）



(政治家に意見を伝える方法)

匿名・アンケートであれば回答したいという子どもが約3割

政治家（議員）に自分の意見をどのように伝えたいですか？
自分がやりたいと思う方法をすべて選んでください。（複数回答）



子どもアンケートのまとめ

- ①子どもの本当の困りごと・心配を補足することの難しさ
- ②こども庁・子ども基本法などといった取り組みに期待する子ども
約半数
- ③政治家に対して意見を言いやすいと思わない 約7割
 - 「意見を言う機会がない」(約半数)
 - 「言っても何も変わらない」(4割強)

こどもが中心の社会を創るために・・・

子どもに関する基本法

- ・児童の権利に関する条約にのつとる基本法
- ・全ての子どもの権利の包括的な権利の保障
- ・子どもの最善の利益を図る社会の実現

子どもの定義

18歳に満たないすべての者

(子ども施策の対象となる若者を含む)

参考：児童福祉法（2016年改正）

第一条 全て児童は、児童の権利に関する条約の精神にのつとり、適切に養育されること、その生活を保障されること、愛され、保護されること、その心身の健やかな成長及び発達並びにその自立が図られることその他の福祉を等しく保障される権利を有する。

法案イメージ

この法律は、子どもの健やかな成長および幸福度（ウェルビーイング）が我が国の持続可能な発展にとって緊要な課題となっていることに鑑み、児童の権利に関する条約にのつとり、子どもに関する政策に関し、基本理念及び子どもの権利の促進に関する施策の基本となる事項を定め、並びに国、地方公共団体、事業者及び国民の責務を明らかにすることにより、もって全ての子どもの権利の包括的な保障及び子どもの最善の利益を図る社会の実現に寄与することを目的とする。

子どもが“権利の主体”であるということを理念等として位置付けた

基本理念

子どもの権利条約の4つの一般原則

- ① 差別の禁止
- ② 子どもの最善の利益
- ③ 生命、生存及び発達に関する権利
- ④ **子どもの意見の尊重（聴かれる権利）**

法案イメージ

子ども自身が影響を受けるすべての決定や活動、法律や政策について、子どもの最善の利益を保障するにあたって、子ども自身の意見（見解、感情、意思や意向を含む）を聴かれ、表明する権利を有すること。子どもの意見表明については、その子どもにふさわしい方法・場所及び雰囲気の下で行われるように配慮すること。子どもの意見は、その子どもの年齢や発達の程度に応じて、正当に尊重されなければならないこと。

国の責務：総合的な実施、財政措置、権利擁護機関の設置、データ収集及び公表 等

子どもの社会参画

①国及び地方公共団体は、子ども施策の策定及び実施に関して、子どもの年齢及び発達の程度に応じて、子どもの意見を聴く機会及び子どもが自ら意見を述べる機会を設け確保し、その意見を子ども施策に反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

特に、自分から意見を表明することが困難な状況にある子ども（乳幼児、障害のある子ども等）には、子どもの代弁者や、意思や意向を聴きとるための仕組みを備えなければならない。

子どもがある事項についての意見表明を可能にするために、その事項について子どもが理解できる文章や言葉で表現し、かつ適切な伝達手段をもって情報共有を行わなければならない。

学校、地域その他の場において子どもに関係する者は、これらの場において子どもに影響のある事項について、子どもの年齢及び発達の程度に応じて、子どもの意見を聴く機会及び子どもが自ら意見を述べる機会を設け、その意見が当該事項に反映されるように努めなければならない。

子どもの権利の啓発

子ども自身、若者・大人を含めたすべての人が、子どもの権利を学び、日常生活の中で子どもの権利を守ることができるための具体的措置について明記

子どもに直接かかわる人への啓発、研修

「子どもの権利条約月間」を作り、普及・啓発を！

子どもの権利を守る仕組み～権利擁護機関

①機能する既存の国家機関とは別個の公的機関であること、②設置根拠となる権利法があること、③人権保障に関する法定された独立の権限を持つこと、④いかなる外部勢力からも侵害されない独立性を持つ機関であること、が必須

権利擁護機関

レベル	機関	機能	対象
国：設置義務	子どもの権利擁護機関 <small>※英米ではコミッショナー、欧州大陸ではオンブズパーソンと呼称</small> －複数名による委員会形式？	<ul style="list-style-type: none"> 調査・提言を通じた監視および制度改善 権利教育、啓発 子ども参加の促進 子どもの立場の代弁 個別救済 	すべての子ども
都道府県（もしくは市区町村レベル）：努力義務			(特に) 権利侵害を受けた子ども

個別の子どもの意見表明

レベル	機関	機能	対象
市区町村・施設単位	子どもアドボケイト	子どもの意見形成・表明支援・代弁	社会的養護にある子ども 権利侵害を受けた子ども (最終的には) すべての子ども

評価機関

社会的養護施設や見相などに対する第三者評価を実施
※英国の例：学校監査・評価を実施するオフステッド

THANK YOU



Save the Children

2. 調査結果（困りごとの具体例）～進学や受験、就職のこと

【困りごと 全体1位】 進学や受験、就職のこと 39.9%

自由記述で挙げられた不安の例：

- 進学希望先に合格できるかという不安
- 学力が足りない
- 志望理由書の書き方がわからない
- 将来自分は何をしたいのかがわからない
- 大学進学の入学準備がわからない
- 様々な進路を考えたい
- 入試が不安

将来のビジョンが見えなくて、どんな大学に進んで、どんな仕事につくか分からないので、この先どうやって生活していくんだろうという漠然とした不安があります（17歳）

来年就職だが、コロナで募集が減っている
ので心配（16歳）

2. 調査結果（困りごとの具体例）～お金のこと

【困りごと 全体2位】 お金のこと 28.2%

自由記述で挙げられた不安の例：

- お小遣いが足りない
- 自分の欲しいものが買えない・物欲がある
- 進学に関わるお金の不安がある
- 親が働いていない、収入が下がったため進学等に不安がある
- 親が借金をしている
- 摂食障害によりお金が足りない
- 自分の学費のせいで家族に迷惑をかけることに負い目を感じる
- 病気の治療費を親にもらえないので自分で稼いでいるがお金が貯まらない
- お金がなくて塾に行けない
- 今後お金を使いすぎてしまわないか心配

一人暮らしをしないと行きたい進学先に進めないが、金銭面的に厳しい
(18歳)

親が病気で働けない為、学校に通えるのか心配
(16歳)

2. 調査結果（困りごとの具体例）～授業など勉強のこと

【困りごと 全体3位】 授業など勉強のこと 28.1%

自由記述で挙げられた不安の例：

- 授業についていけるか不安
- "授業の難易度が上がることに対応すること"
- 勉強が難しく、ついていけない
- 成績があがらない
- 勉強のやる気がでない
- 自分にあった勉強方法がわからない
- 定時制に通っていること
- 勉強が上手くいかないことで周囲の大人との関係が難しくなる
- 勉強が簡単すぎるため、自分にあった学習をしたい
- 日本語が母国語ではない生徒への授業サポートが欲しい

自分に合った勉強法が分からずテストなどで良い点を取ることがないから（16歳）

学力の差があるのに、クラスで同じことを学ばなければいけない。自分のレベルに合った学習を学びたい（11歳）

2. 調査結果（困りごとの具体例）～コロナのこと

【困りごと 全体4位】 新型コロナウイルス感染所のこと 15.7%

自由記述で挙げられた不安の例：

コロナによりやりたいことができない

（学習への影響、学校生活の制限、部活や学校行事、修学旅行ができない）

- コロナによる学校生活の制限による精神の落ち込み
- **バイトに影響が出てお金が稼げない、経済的な影響が出た人への補償の少なさ**
- 進学や就職に関する情報収集が難しくなり将来を考えにくい（オープンキャンパスの中止等）
- 学習環境の変化や勉強の予定が立てにくいなど「学び」に関する不安
- コロナに感染すること、感染者が増えることへの不安
- コロナワクチンを打たないことによる差別への不安
- コロナワクチンの副作用への不安
- コロナによる友人関係への影響
- 自分がコロナを人にうつしてしまうかもしれないことが怖い

**コロナで制限があったりして、
なかなか学校生活が楽しめない
(17歳)**

2. 調査結果（困りごとの具体例）～家族以外の人間関係のこと

【困りごと 全体5位】

家族以外の人間関係（友だち・恋愛関係など）のこと 15.3%

自由記述で挙げられた不安の例：

- 友人関係が難しい
- 友達ができない・できるか不安
- 友人と上手く話せない
- **友人に悪口や陰口を言われた**
- 友達に言われたことが気になる、言われたことに傷ついた
- 親友がない

オンライン授業で友達が出来ない
(18歳)

悪意なく、ただふざけている感覚で偏見
の言葉を使う人がいて、自分が否定さ
れたように感じた(17歳)